

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年3月31日

事業所名 鴻巣市立つつみ学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	1	集中して指導できるスペースがないので、パーテーションなどで工夫している。	基準は満たしているが療育を行う上ではスペースに余裕があると良い。現在の人数では、適切だと考えます。
	②	職員の配置数は適切である	8	2	基準は職員1名に対し利用児4名であるが児童の状態や特性により1対1の支援を行っている。	連絡を密にすることで担当職員だけでなく、全職員が一人ひとりにあった療育を継続的に同じように提供できるようにしている。発作時などの対応等がスムーズに行えるようフリー職員がいると更に良い。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	7	施設が古いのでバリアフリー化はされていないが、段差のある場所では子どもたちから目を離さず危険のないように対応している。また、日頃より段差を意識し、機能訓練(体づくり)を取り入れている。必要に応じて、修繕している。	社会的にはバリアフリー化は進んでいるものの、段差をなくすことは完全ではないため、段差などを意識することで乗り越える力を養えるようにする。今後も危険と思われる場所などは速やかに対処する。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっている。	10		ドアノブや蛇口、床等使用する場所を丁寧に清掃し、こまめに消毒している。補助椅子や足型等を設置し、子どもたちにわかりやすく心地よい空間となるように心掛けている。	感染予防対策も含め、衛生面には最大限の配慮を行っている。トイレトレーニングを行うためトイレの数が少ないことは課題である。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10			
	⑥	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに保護者等の意向を把握し業務改善につなげている	10		毎年、保護者等向けの評価表を配布し、意向等を把握し、改善に繋げている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	10		ホームページ等で公開している。	保護者による評価と事業所自己評価を丁寧に見直し、次につなげていく。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	2		外部評価は行っていないが、事業所評価やご要望等により対応している。
	⑨	職員の質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10		毎月、臨床発達心理士による勉強会のほか外部の研修会にも参加している。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10			
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10		計画に沿って療育を行い、定期的に会議及び支援内容等の確認を行っている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	10			
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10			
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	10			
	⑰	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10		全職員が周知できるよう連絡ノートに記入し連絡漏れのないようにしている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10		勤務時間が異なったり、バス送迎業務などもあることから全職員が集まることは難しいが、その都度可能な範囲で行い、振り返りのための時間を持つようにしている。連絡も密に行っている。	
	⑲	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10			
	⑳	障害児相談支援事業のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10			

関係機関や保護者との連携	②②	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関との連携した支援を行っている	10			
	②③	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援してる場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援してる場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10			
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(幼稚部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10		特別支援学校に就学が決まった場合は担当者への情報提供の機会を設けている。	
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10		研修は可能な限り受ける努力をしている。また、他市の児童発達支援センターとも必要に応じて連携を図っている。	
	②⑧	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	10		以前は1カ所の保育所だったが、年長児が7名と多いため、2カ所の保育所にて交流保育を行う。	保護者から「年中児以下も参加させてほしい」とのご意見もあるが職員の人数と受け入れ側の体制を考えると難しい。受け入れ側とも検討したい。
	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	10			
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10		連絡帳や送迎時、つくしんぼ教室などで子どもの様子等について伝え合い、共有する。	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家庭支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8	2	ペアレント・トレーニングとしては行っていないが、月に1度親子教室時に臨床発達心理士による保護者向けの話は行われている。また、研修等のお知らせもしている。	
保護者への説明責任等	③⑫	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10			
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10			
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10		保護者の普段と違う様子に気づきこちらから声を掛けて相談にのるようにしている。	
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同志の連携を支援している	9	1	保護者会は特にないが、つくしんぼ教室などで保護者同士の繋がりが持てるように、学年ごとに色分けした名札を作成した。	仕事や家庭状況等、様々な事情により保護者会の活動が難しい保護者の方もいるので、負担にならないような形で検討していく。
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10			
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10			
	③⑱	個人情報の取り扱いに十分注意している	10			
	③⑲	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10			
	④⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9	1	近隣の方との挨拶や会話を心掛けている。実習生の受け入れも積極的に行っている。クリスマス会などは、ライオンズクラブ等の団体の方との交流も行っている。	鴻巣ライオンズクラブの方を発表会に招待したり、見学の方などにも行事の様子や子どもたちの楽しんでいる姿を写真のパネルにして、つつみ学園の様子を紹介している。
	非常時の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	10		親子教室で消防署立会いの避難訓練や引き取り訓練の実施を行うことで親子で共通認識を持って頂く
④②		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10			
④③		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	10		医師の診断による処方箋及び保護者からの依頼による投薬申請書の提出を求めている。	
④④		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10		毎年、新年度開始前にアレルギーの有無について調査し、該当する場合には保護者と管理栄養士、看護師による面談を行っている。	
④⑤		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10			

④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10		毎年、虐待防止のための研修会に参加し、情報共有と虐待防止に努めている。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画にきさいしている	2		身体拘束は行っていない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。